



発行所
公益社団法人 国民文化研究会
(九州←東京←全国)
東京都渋谷区東1-13-1-402
振替 00170-1-60507
電話 03-5468-6230
FAX 03-5468-1470
http://www.kokubunken.or.jp/
E-mail: info@kokubunken.or.jp
月刊「国民同胞」編集部
毎月一回10日発行
購読料 年間2000円

皇位継承に関する重要な二つの視点 — 何故「男系男子」なのか —

大岡 弘

六月七日、安定的な皇位継承のあり方を検討する有識者会議での意見聴取が終った。「十項目」については、戦後皇籍離脱を余儀なくされた旧宮家の男系男子孫の皇籍取得も含まれてゐた。この実現を望む意見が半数を上回った。皇室の歴史を顧みれば、旧宮家の御子孫方の皇籍取得こそ、実現されるべき最善策と思はれる。何故、皇位継承者は男系男子であらねばならないのか。その理由を二つの視点から述べてみたい。

第一は「民族信仰」といふ視点である。「古事記」「日本書紀」などの諸史料をもとに明治二十八年七月に編輯が完了して、宮内大臣を経て明治天皇に進された系図、すなわち『旧譜皇統譜』といふものがある。そこには、皇祖神の系譜（神統譜）が、次のやうに記されてゐる（神名

はカタカナ書きに直し、かつ略記した）。
イザナギノ神（イザナミノ神も並列記載）アマテラスオホミカミ（天照大神）—アメノオシホミミノミコト—ニギノミコト—ホホデミノミコト—ウガヤフキアヘズノミコト—神武天皇
天照大神の右横には世系第一と書かれてをり、神武天皇の右横には、皇統第一、世系第六と書かれてゐる。この系図は、イザナギノ神とアメノオシホミミノミコトの間に、スサノヲノミコトではなく天照大神が置かれてゐる。この神代における系譜意識は、「人ノ代」における父系（男系）の血統に相通ふものと思はれる。天照大神は女神であられる。だが、『古事記』並びに『日本書紀』本文の記述によれば、アメノオシホミミノミコトは天照大神が「物実」（父種）をスサノヲノミコトに提供する

ことよつて成り出でられた。天照大神が父神の役割を果たされて、御子のアメノオシホミミノミコトがお生まれになったと解釈できる叙述である。それ故に、天照大神が女神であつても、皇祖神の系譜は、女系にはならないのである。歴代の天皇は、廻り辿る経路に違ひはあつても、過去の女性天皇も含めて、総て父子継承の男系血統一筋で皇祖天照大神に繋がつてゐる。今上陛下は、信仰において神統譜に繋がる尊い御系譜にあり、かつ紛ふことなく男系皇統のお血筋を受継いでいらつしやる。御祖先の天照大神にお仕へするといふ天皇陛下の祭り主のお務めは、男系皇統以外の者が決して代り得ない皇祖神祭祀なのである。この事が、皇位が男系皇統に限定される所以であらう。

皇祖神祭祀を核とする、広く傍系を含む男系継承といふ皇位の継承形態は、一般国民の家の継承とは全く異なるといふことを、我々は肝に銘じなければならぬ。天照大神にお仕へする祭り主としてのお姿の一端は、「御鈴の儀」に拝するところができる。賢所における大祭、小祭では天皇陛下にのみ「御鈴の儀」があつて、その間陛下は、天照大神の御神霊の御前に平伏されて、ひたすら神威な御鈴の音を拝聴なされる。三分間以上、七分間とも八分間とも洩れ承る。男系男子であらねばならない第二の視点は、「天皇は天の下知しめす国家元首である」といふことである。歴代の天皇は、天照大神が天孫降臨に際してニギノミコトに授けられたとされる三種の神器を承継してこられた。この神器を保持されてゐることが、天皇の正統性の証であつた。三種の神器の一つに剣が存するのは、男系の男子こそが皇位の継承者にふさはしいと考へられてきたからではないかと思はれる。さうした天皇は元首として国家を代表されるが、そのお立場は行政権を掌握してゐるかどうかと直接関係がない。歴代の天皇は国家統治の首座にあられても、統治権の実際的行使を他の者にお任せになることが多かつた。摂政や関白、征夷大將軍や内閣総理大臣を任命されて、統治権の実際的行使者よりも一段上に立つてこられた。何故それが可能であつたのか。それは、神統譜に繋がる祭り主の天皇を神徳の体現者として、代々の我らの先人たちが当然至極のことと仰いできたからである。かうした「男系による万世一系の高き御存在」が、窮まりなく存続することを切に願ふものである。

(元新潟工科大学教授)